

2010年春学期レポート

2年生に進学

ギャロデットへ入学してまだ一年目だが、春学期から2年生(Sophomore)になった。アメリカは学年制ではなく単位制のため、在学年数ではなく、今まで取得した単位数で自分の地位が決まるのだ。私が1年間、オーロニ大学で取った単位のいくつかの単位互換が認められたため、昨学期に取得した単位とあわせると、2年生ということになるのだ。2年生になったからと言って、変わったことは特にないが、初心を忘れずにこれからも日々精進していきたい。

1月18日から春学期が始まった。が、春学期初日に雪が降り、開校が2時間遅れた。次の週にも雪が降り、クラスが何回か休講になったりと、いきなり遅れをとったスタートであった。

履修クラス

1) Introduction to Integrated Learning/総合学習入門

ギャロデット大学の一般教養課程には4つの総合学習クラスがある。その4クラスを履修する前に取らなければならないクラスが、この総合学習入門クラスである。総合学習は、ひとつのテーマを2つの学問分野から学んでいくことで、多角的な視点から物事を分析する力を身に付けることを目的としている。

総合学習入門クラスは、「ワシントンDC」がテーマである。クラスごとに学習分野が異なり、私は「文化とアメリカ政治学」を選んだ。ワシントンDCの色々な顔を、文化面と政治面から分析・発見していくことができ、印象深いクラスであった。時には、ワシントンDCだけにとどまらず、世界やアメリカ全体で取り上げられている論点などにも触れ、クラスメイトとディスカッションをしたりして、多くのことを学ぶことができた。

2) Introduction to Psychology/心理学入門

心理学入門クラスを取るのには2回目である。オーロニ大学で秋学期に受けた時に、成績が良くなかったので再履修することにした。やはり受けるのは2回目ということもあり、先生の言っている事が頭に入ってきやすかった。少人数クラスなので質問がしやすいのもありがたかった。

ギャロデットには、比較的難しいとされるクラスには毎週 Supplemental Instruction Session(補充学習指導)があり、講義の復習をしたり、講義で理解しきれなかったことや、宿題でわからないことを聞きにいたりすることができる。テスト前などはクラスメイトと学習指導室に集まって問題を出し合ったり、その都度わからないことをSIリーダーに聞いたり、テストに備えてしっかり勉強をすることができた。

3) The Field of Social Work/社会福祉学入門

やっと今学期から社会福祉のクラスをとることができた。このクラスでは、社会福祉の歴史や、アメリカの社会福祉制度、社会福祉士の活動分野、などといった社会福祉の基礎を学んだ。アメリカ社会が抱えている問題とりあげ、ミクロ、メゾ、マクロレベルで分析し、ソーシャルワーカーとしてどう対応すべきか、どういった援助が必要なのか、を考えた。

4) Child Welfare/児童福祉学

こちらも社会福祉学入門に続き、専攻科目である。児童福祉の中でも特に児童虐待に関する事を学んだ。虐待の形態や、虐待の要因（社会的・文化的・個人的・家族的）、また児童虐待に対するサービスや政策、社会福祉士の役割なども学んだ。

クラスを受けて感じたのが、アメリカは児童虐待に関する法律が厳しい、ということ。それだけ、児童虐待が多いということだろう。それから、アメリカは多民族国家である。多様な宗教的・文化的・民族的背景をもつ人種や民族が一つの国土に集まり、住んでいる。文化や価値観の違いから生じた誤解によって起きた問題が、子どもやその家族の幸せを奪ってしまうこともある。ソーシャルワーカーはそのことを十分理解・配慮して支援を行うことが、いかに大事かを実感した。

5) 就職活動ワークショップ

このワークショップへの参加は卒業要件のひとつである。就職活動の為に必要なスキルを学ぶワークショップで、学期始めに3回に分けて行われる。履歴書の書き方や、インタビューの受け方などを学んだ。

このワークショップに参加して、驚いた事がたくさんあった。まず、履歴書の書き方だ。日本は履歴書用紙に手書きで記入して作成するが、アメリカは自由書式であり、自分でワードを使って作成する。また、性別・年齢は書かず、写真も貼らない。これは、雇用時の性別・年齢・人種・容姿による差別を防ぐ為だそう。さらに、ボランティア活動や団体活動などの経歴も記入する。

また、インタビューの受け方だけではなく、エレベータースピーチという、自己アピール手法も学んだ。エレベータースピーチとは、30秒〜1分間という短時間の間に効率的に自己アピールする手法である。エレベーターに乗った時に偶然重要な人物と居合わせた！という時に目的の階に着くまでの時間内に効率よく自己アピールしたことで、その人物に興味を持ってもらい、採用された、ということから由来している手法である。これは、交流会や合同会社説明会の時など、ネットワーク作りなどに有効である。とても勉強になったワークショップであった。

友人等の卒業式を見届けて

5月13日にギャロデット大学は142回目の卒業式を迎えた。3期生富田さん、4期生川上さんをはじめ、4年前にELI(ギャロデット大付属英語学校)に居た事もあり、多くの友人の卒業を見届ける事ができ、とてもうれしく思う。

卒業生達の姿を見て、私も早く卒業したいという気持ちと同時に、頑張ろう、と奮起

させられた。大学に入学して約1年。良き先生だけではなく、良き友人にも恵まれ、一緒に課題をこなしたり、テスト勉強をしたり、励ましあったりして、良い刺激となっている。大学生活はあっという間に終わってしまうと思うので、一日一日を無駄にせずに、いろいろな事を吸収しながら、学力だけではなく、人間関係も深めていきたい。こんな貴重な出会い・機会を与えてくれたのは、多くの方の支援があったからだと思う。私を支援してくださっている日本財団、ASL協会、また家族・友人・先生達・他ブログを読んでくれている方々に改めてありがとうを言いたい。